

大阪城大手前配水池の造形に関する史的研究

小川 翔大¹・岡田 昌彰²

¹非会員 豊岡市都市整備部都市整備課（〒668-0033 豊岡市中央町2-4）

E-mail: sahkoatyaa.1117@gmail.com

²正会員 近畿大学教授 理工学部社会環境工学科（〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1）

E-mail:okd@civileng.kindai.ac.jp

水道は近代都市成立の基礎となる重要な施設であり、公衆衛生の向上や防火に重要な役割を果たしてきた。一方、戦前の水道施設に施された特徴的な意匠、さらに諸施設の対称配置による軸線を伴う空間構成を組み入れた造園的空間などにも文化財的価値が近年認められている。

本研究では、近代における都市公園ならびに水道施設としての大阪城址の歴史に着目し、庭園意匠の施された大手前配水池の造形的特徴及び城址公園における配水池の位置づけを明らかにすることを目的とする。

Key Words : Water Supply, Reservoir, Landscape, Osaka, Castle

1. 研究の背景と目的

1880年代、数回にわたりコレラが蔓延した大阪市では上水道整備が急務となり、1895（明治28）年に我が国で4番目となる上水道が創設された。大手前配水池は市内で最も標高の高い大阪城天守閣の隣接空間に設置され、公衆衛生の向上や防火に資するとともに近代都市成立の基礎として重要な役割を果たしてきた。

一方、戦前に整備された水道施設には特徴的な意匠が施され、工夫された近代水道システムとともに近年は文化財的価値が評価され、国登録有形文化財や土木学会選奨土木遺産などに登録・認定されている。一方、2010（平成22）年に近代水道施設として初の国名勝に指定された金沢市末浄水場のように、水道施設に造園的空間を組み入れた秀逸な造形も確認されている。

本研究では、近代における都市公園ならびに水道施設としての大阪城址の歴史に着目し、庭園意匠の施された大手前配水池上部の造形的特徴及び城址全体におけるその位置づけについて明らかにすることを目的とする。

既往研究には、戦前期の大阪城址における公園化や利活用計画について論じた橋寺らの研究¹⁾、設計者椎原兵市による天守閣復興と公園整備の設計意図を分析した小野の研究²⁾、ならびに椎原の造園設計に関する宮城らの研究³⁾があるが、大手前配水池の上部に構想された庭園的空間の詳細及びその変遷について明らかにした研究は未だ存在していない。

2. 大手前配水池の経緯⁴⁾

大阪市では上記のコレラ流行とともに防火の見地からも水道敷設の緊要性が認められ、1891（明治24）年より敷設工事が開始された。上本町などに配水塔を設置するH.S.パーマーの当初設計は経費削減や安全性確保などを理由にウィリアム・バートンの勧告とともに変更され、大阪城内に配水池を設けることとなる。当時敷地を管理していた陸軍との間で協議のうえ起工し、1893（明治26年）に竣工した（図1）。



図1 現在の大手前配水池



図2 椎原による大阪城公園の当初案と配水池
（文献5）より筆者作成

3. 城址公園事業における大手前配水池

（1）平面幾何学式庭園の導入

大阪城天守閣復興計画とともに、市公園課長・椎原兵市は1920（大正9）年に公園計画案を大阪市に提出して

いるが、ここでは配水池の上部に平面幾何学式庭園の整備が構想され(図2)、その後の実地設計で形態は変更されるも同様の庭園が計画されていた(図3)。1933(昭和8)年に起工した第五回水道拡張工事では、陸軍の水源確保を目的に配水池に造兵廠水槽が設置され、庭園も再度設計変更されているが(図4左)、その外観は戦後直後に撮影された航空写真にも確認することができる(図4右)。

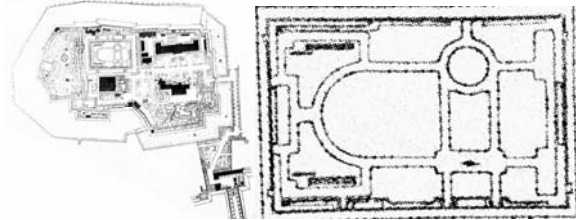


図3 大阪城公園実地設計図と配水池
(文献6)より筆者作成)

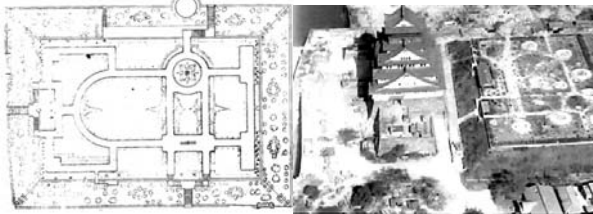


図4 (左) 第五回水道拡張工事による設計変更⁹⁾
(右) 戦後直後に撮影された配水池と天守閣⁹⁾



図5 現在の石垣隧道



図6 大阪城新公園之図(1931(昭和6)年)⁷⁾
回遊ルートに配水池が含まれている。

(2) 石垣隧道の整備と回遊ルートへの組み入れ

椎原の原案では、大阪城内山里丸から二の丸へと至る極楽橋を再建し城址へのアクセス路とすることが計画されていたが、陸軍からの許可が下りず当初案は変更され、石垣に隧道(図5)を設け大手前配水池に接続させることとなった。この結果、配水池へのアクセスが向上することとなるが、実際、当時設定された観覧順路には配水池も含まれていたことがわかった(図6)。

(3) 俯瞰を前提とした配水池庭園の整備

1931年11月5日付の大阪朝日新聞では城址公園の開園とともに各施設の歴史的背景などが大々的に報じられているのに加え、紀州御殿附属の林泉に関して「天守閣上から俯瞰すると白鶴が翼を広げているような雄大な姿を描いている」と記されていることを確認した(図7)。このことから、復興天守閣には周囲の庭園を俯瞰する視点場としての役割が与えられていたことが推察できる。実際、平面幾何学式庭園の特徴も俯瞰によって明確となることから¹⁰⁾、復興天守閣と配水池庭園とを一体的に捉える思想がここに指摘できる。実際、復興天守閣を視点場として直下に整備された庭園を俯瞰させる景観賞玩モデルは、大阪府岸和田城公園にある八陣の庭(1953(昭和28)年竣工:重森三玲作庭。2014(平成26)年国名勝指定)にも確認することができる。



図7 城址公園の紹介記事
(大阪朝日新聞1931年11月5日付)

5. 結語

本研究では、大阪城公園に現存する大手前配水池が担っていた庭園としての役割を明らかにした。戦後この庭園は失われ、現在はユニークな発想そのものも完全なまでに忘却されてしまっているが、水道施設を積極的に賞玩対象として位置づける優れた発想はもっと見直されて良いだろう。近代大阪の人々のもっていた古くて新しい思想の反映体として、今後本庭園を復原することも有意義であると考えられる。

【参考文献】

- 1) 橋寺知子・川道麟太郎(2003) 明治初年に大坂城址に設置された近代的諸施設について,日本建築学会計画系論文集 68(568)
- 2) 小野芳朗(2013) 大阪城公園の初期計画における設計者椎原兵市の意図,ランドスケープ研究Vol.76 No.5
- 3) 高橋宏樹・宮城俊作(2000) 椎原兵市の遺した図面からみた戦前の造園設計における平面図の意味と役割,ランドスケープ研究Vol.63 No.5
- 4) 大阪市水道局(1996) 大阪市水道百年史
- 5) 椎原兵市(1924) 現代庭園図説,現代庭園図説刊行会
- 6) 椎原兵市氏の業績と作品出版委員会(1966) 椎原兵市氏の作品と業績
- 7) 大阪城天守閣(2011) 大阪城天守閣復興80周年記念特別展 天守閣復興80th
- 8) 大阪市水道局(1951) 大阪市第五回水道拡張工事誌
- 9) 公益財団法人大阪府文化財センター提供
- 10) 例えば英国Boarstall Towerの平面幾何学式庭園など。

(2017.4.10 受付)